

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0119 NO78

校長 伊波喜一

卒業の 門出に花を 添えるかな 卒アルバムに 込めた思いを

まだ先のような気がしていたが、卒業に向けての準備がすでに始まっている。6年児童・関係の皆さんの協力を得て、卒業アルバム作りも着々と進んでいる。春近しの感を強くする。卒業というと、高校の卒業式の時に、担任のT先生が皆に話された一言を思い出す。生活指導面で先生に手を焼かせた私達の学級。残念だが、その内の一人Aは退学となった。卒業後、毎年開いたクラス会では、皆、つとめてその話題には触れないようにしていた。それから、二十年近く経っただろうか。働きながらAが高校を卒業した、と連絡が入った。聞くと、家業を継ぎながら高校に通い、見事に卒業したとのこと。その陰に、先生の励ましがあった。あの卒業の日以来、ずっと。Aも社会に出て、学ぶことの大切さを感じたのと同時に、学びそのものを欲したに違いない。その後押しを、私達の見えないところで、先生はしてくださっていたのだ。20年ぶりのAと先生を囲んでの卒業式で、Aは男泣きに泣いた。あの時の先生の一言「仲間を大切に」の深い意味を知る事が出来た私達は、幸せである。